

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成17年7月14日(2005.7.14)

【公表番号】特表2001-508105(P2001-508105A)

【公表日】平成13年6月19日(2001.6.19)

【出願番号】特願平10-531003

【国際特許分類第7版】

C 0 8 L 27/16

C 0 8 J 3/24

C 0 8 K 5/053

C 0 8 K 5/13

C 0 8 K 5/17

C 0 8 K 5/41

【F I】

C 0 8 L 27/16

C 0 8 J 3/24 C E W Z

C 0 8 K 5/053

C 0 8 K 5/13

C 0 8 K 5/17

C 0 8 K 5/41

【手続補正書】

【提出日】平成16年11月2日(2004.11.2)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

## 手 続 補 正 書

平成16年11月2日

特許庁長官殿

## 1. 事件の表示

平成10年特許願第531003号



## 2. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

名 称 ダイネオン エルエルシー

## 3. 代 理 人

居 所 〒100-0004 東京都千代田区大手町二丁目2番1号

新 大 手 町 ビ ル デ ィ ン グ 3 3 1

電 話 ( 3 2 1 1 ) 3 6 5 1 ( 代 表 )

氏 名 ( 6 6 6 9 ) 浅 村

皓



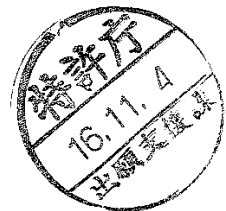
4. 補正により減少する請求項の数 34

## 5. 補正対象書類名

請求の範囲

## 6. 補正対象項目名

請求の範囲



7. 補正の内容 別紙のとおり



## 請求の範囲

1. フルオロカーボンエラストマー組成物を硬化する方法であって、
  - (a) (i) (A) フッ化ビニリデンと、  
(B) 式  $\text{CF}_2=\text{CF}(\text{CF}_2)_m-\text{O}-\text{R}_f$  (式中、 $m=1\sim 4$  であり、 $\text{R}_f$  は必要に応じてO原子を含む過フッ素化脂肪族基である) の過フッ素化エーテルと  
から誘導された繰り返し共重合単位を含む飽和エラストマーゴムと、
    - (i i) 少なくとも1種の架橋剤と、  
(i i i) 酸受容体との混合物を提供するステップと、
  - (b) 該混合物を成形するステップと、
  - (c) 得られた該成形物品を硬化するステップとを含む、方法。
2. (a) (i) フッ化ビニリデンと、  
(i i) 式  $\text{CF}_2=\text{CF}(\text{CF}_2)_m-\text{O}-\text{R}_f$  (式中、 $m=1\sim 4$  であり、 $\text{R}_f$  は必要に応じてO原子を含む過フッ素化脂肪族基である) の過フッ素化エーテルと  
から誘導された繰り返し共重合単位を含む飽和エラストマーゴムと、
  - (b) 少なくとも1種の架橋剤とを含む、フルオロカーボンエラストマー組成物。
3. (a) (i) フッ化ビニリデンと、  
(i i) 式  $\text{CF}_2=\text{CF}(\text{CF}_2)_m-\text{O}-\text{R}_f$  ( $m=1\sim 4$  であり、 $\text{R}_f$  は必要に応じてO原子を含む過フッ素化脂肪族基である) の過フッ素化エーテルと  
から誘導された繰り返し共重合単位を含む飽和エラストマーゴムと、
  - (b) 少なくとも1種の架橋剤と、  
(c) 酸受容体とを含む組成物から製造される硬化フルオロエラストマー。